

2009年夏期調査

2009年8月、Bol'shoj Naryn遺跡の第4次発掘調査が約一ヶ月間に亘って実施されました。8月20日から26日にかけては、日本人研究者8名、中国人研究者1名も現地を訪れ、イルクーツク大学の教員・院生・学生らとともに作業に当たりました。

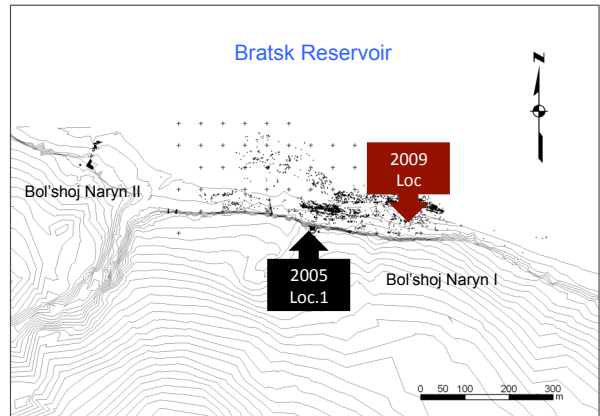
本年度の発掘は、Bratsk貯水池(Osa湾)に注ぐ小川の東側に当たる地点(Bol'shoj Naryn I 遺跡)で実施しました。2005年度の調査区から200mほど東側の地点に約30㎡の発掘区を設定・精査したところ、地表下2mほどの位置に検出されたカルギンスキー亜間氷期の古土壌層中から、炉跡に由来するとおぼしき炭化物の集中を検出。その周囲から石器類や骨器、ウマを主体とする哺乳動物化石も数多発見することができました。

川べりにも都合三ヶ所の試掘区を設け、うち一ヶ所を地表下約10mの深さまで掘削した結果、丘陵の下部にはカザンツェボ間氷期の古土壌層が堆積していることも確認するに至りました。また、8月25日には船をチャーターし、Igtei遺跡やKrasni Yar遺跡などOsa湾沿岸の更新世遺跡群の巡見も行いました。

イルクーツク市滞在中は考古学・民族誌学研究所で、近年市街で緊急発掘された上部更新世の人類遺跡、Gerasimov遺跡、Sedova遺跡の出土資料を観察する機会も得ました。本年度Bol'shoj Naryn遺跡で検出した炭化物・動物化石と上記2遺跡から出土した哺乳動物化石の一部については、目下東京大学で放射性炭素年代の測定を試みています。



Bol'shoj Naryn遺跡の位置



発掘区の位置



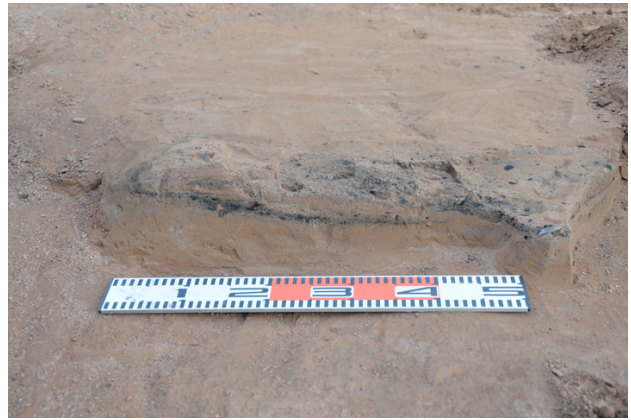
2009年発掘区



古土壌層の発掘風景



古土壤層中の遺物出土状況



炉址に由来するとおぼしき炭化物の集中



古土壤層中から出土した石器



古土壤層中から出土したウマの頬齒列



古土壤層中から出土した骨器



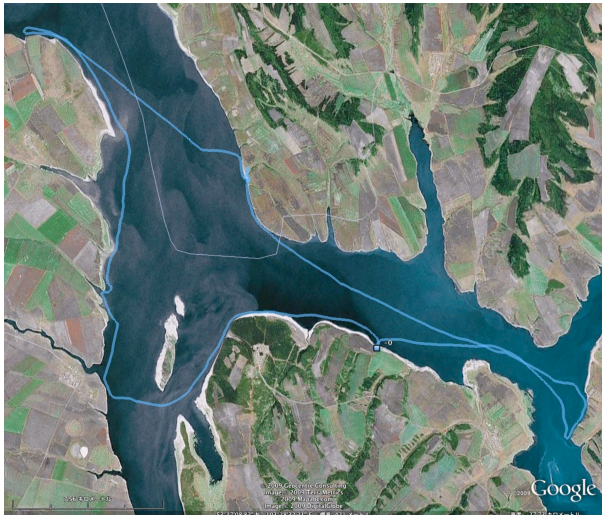
ロシア・中国・日本三ヶ国の研究者・院生・学生で構成された調査隊



古土壤層の発掘風景



試掘区の土層堆積状況



周辺遺跡巡見時の航路



Krasni Yar遺跡の踏査